

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872700444		
法人名	社会福祉法人那珂の郷		
事業所名	グリーンヴィラ那珂		
所在地	兵庫県多可郡多可町中区牧野字国木谷166番9の1 (電話) 0795-32-5165		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2008年8月9日	評価確定日	2008年10月9日

【情報提供票より】(20年6月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人,	常勤換算6.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	~1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

## (4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	5名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	81歳	最低	73歳	最高	84歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中町赤十字病院、近藤医院
---------	--------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの個性や好みを大切にされたケアを心がけており、住み慣れた地域での心休まる居場所づくりを目指している。昨年からは同一法人の他設備も活用してサービスの範囲の充実、地域との交流を重視して利用者支援の環境を整えつつある。運営推進会議を通して行政、地域住民の協力のいっそうの強化が望まれる。</li> <li>・年を追う毎に改善成果が向上しており、管理者、職員の前向きな姿勢は高く評価される。</li> </ul>
--

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の開催については、役場担当者の協力を得られ開催した。地域とのつきあいについても、少しずつではあるが取り組んでいる。</li> </ul>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価は計画作成担当者がまとめた。全職員で事例と比較検討しながら評価項目の意義や理解に努めた。日々の業務に流されやすいが、基本に立ち返る機会としている。</li> </ul>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民等、民生委員、役場職員に、ホーム関係者が出席している。地域住民からは、介護体験などを話してもらいホームにとっても参考になった。役場職員には、会議運営や地域との関わり方など、必要に応じて情報提供してもらっている。</li> </ul>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の来訪も多くコミュニケーションはとれている。家族との話し合いの中で意見や要望をホームから聞いていくよう努めている。</li> </ul>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会には入会しているが、地域行事への参加は限られている。ホームを開放しての夏まつりには、多くはないが地域住民の参加も得られ交流のきっかけとなった。今後は、子どもたちとの触れ合いも実現させ、地域との双方向の交流に積極的に取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「家庭的な雰囲気を提供し、地域との輪(つながり)を大切にしていこう」ことを掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ミーティング等で、理念の言葉の意味を職員間で話し合い、日々の介護現場で各職員が実践できているか、事例を基に話し合っている。迷ったり、分からなくなった時に立ち返る原点としている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会には入会している。地域行事への参加機会を増やし、ホーム主催の夏まつりを通してホームを開放して双方向の交流につなげられるよう考えている。地元の高校生が、ボランティアで定期に来訪交流している。ホームは、子どもとの交流の機会を望んでいる。		・子どもとの交流に積極的に取り組んでいただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者主導の下、全職員で事例と比較検討しながら評価項目の意義や理解に努めた。日々の業務に流されやすいが、基本に立ち返る機会としている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・会議を実施した結果、役場担当者、地域住民や家族が出席した。地域住民の介護体験談や、職員からの会議運営についてや地域との関わり方などのアドバイスを得た。</p>		<p>・ホームの現状や様子を報告し、理解をうるとともに、課題や改善策を共に検討するなど積極的に活用されたい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・地域の特性を踏まえ、地域への理解や協力体制のための相談をして、改善策を検討してもらっている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者ごとの担当者が、個別に日常の様子や近況を家族に報告している。体調等必要に応じて、ケアマネが電話で伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・少人数であり、家庭的な雰囲気の中で、何でも話しやすい環境づくりとコミュニケーションを図るよう努めている。家族には気軽に、ホームのためにも意見を言ってもらいたいことを働きかけている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・離職を避けるため、職員と代表者が勤務状況について互いに話し合う機会を持ち、信頼関係を築くようにしている。管理者も職員と話し合う時間を作り、思いや悩みを受け止めるよう配慮に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・新人研修は、基本を重視した内容で時間をかけている。外部研修については、経験年数・資格・力量などを考慮して参加を決めている。内部研修は、管理者、職員からその都度テーマを出し合い、必要に応じて行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・ケアマネが定期的に連絡会に参加して情報交換をしている。職員は研修等で交流する機会はあるが、定期的な職員間の交流にはいたっていない。</p>		<p>・例えば、連絡会を職員も参加交流できるように発展できないだろうか。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・入居前は必ず利用者宅を訪問して状況や生活環境を把握している。ホームへの来訪も数回重ねてもらい、利用者や家族が他の利用者や職員と馴染んでもらう時間を十分にとるようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・職員は利用者と一緒にすることで、常に教えてもらうという姿勢で接している。職員が先に手を出すのではなく、見守りに努め待つことを重視して支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・把握しにくい利用者には、寄り添うことで理解につなげ、その人の気持ちを感じとれるようになる。家族や知り合いに相談したり、一緒に考えてもらうこともある。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・センター方式により、利用者主体の介護計画を作成しているが、記録は十分とはいえないため、担当者を中心にカンファレンス等で話し合いながら計画をたてている。今後は記録を充実させ、これを基に計画作成することを考えている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・徘徊等の問題行動や、体調の変化があれば、本人の気持ちを聞き、家族に相談しながら随時見直しをしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・看護師が体調管理を行い、早めの受診で入院回避、医療処置を受けながらの生活の継続、法人の併設特養のデイサービスや行事に参加等個々の満足度を高める支援がなされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・かかりつけ医の受診は家族が行う。看護師が定期的にかかりつけ医と連絡を取り、受診結果の報告を家族、職員に伝え、対応を確認している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時にターミナルケアには対応できないことや重度化した場合の施設の紹介について説明している。ADLの低下にはできるだけ対応したいと職員で話し合っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・トイレ誘導も他の人にわからないよう言葉かけに注意している。個人情報保護については職員の入職時に説明し誓約書を取っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・その日行きたいところ、したいことをできるだけ支援している。入浴はいつでも可能。ゲートボールや買い物、犬の散歩等利用者の希望に添っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立はその日に考え、畑の野菜を使ったり、一緒に買い物に行ったり、食事・調理に関心を持ってもらえるよう心がけている。食事作りが日課になってない人には別の関わり方を持つように、その人なりの関わりをさらに支援して行きたいと考えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴時間、回数、各自のシャンプー、リンス、ボディソープを準備等希望に合わせた入浴ができるようにしている。利用者が家族の入浴介助を望む人には、家族に協力を得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴等からアセスメントし、包丁とぎ、草引き、新聞、郵便物の取り込み、重いものの移動、指編み座布団作り等、役割を持って生活できるよう支援している。カラオケや外食の楽しみ、庭で食事する等の気晴らしも組み込んだ日々の生活支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・近くのゲートボール場でゲートボールをする人、買い物や犬の散歩をする人、併設特養の喫茶店に行ったり、ホームの庭で食事をする人、それぞれの希望で戸外に出られるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・施錠していない。前の道路が見通し悪く危険なので、チャイムを付けているが、鍵をかけることの弊害について話し合っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・災害時の対応についての話し合いやマニュアルはあるが、避難訓練は昨年一回行っただけで、夜間想定も取り組んでいない。事業所では特養と合同で避難訓練をしたいと考えている。</p>		<p>・地域住民との連携と併設特養との合同訓練を早急に行うことが求められる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・栄養、水分摂取量を記録している。水分摂取については、医師と相談、栄養については特養の栄養士と相談し、一人ひとりの状態に応じた対応が出来る体制をとっている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有スペースは好みの場所に座れるよう椅子の配置を工夫している。広い廊下には花やベンチを置いて休憩したり、外部環境に近い状態を意識的に作っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・入居前にケアマネが自宅を訪問し、馴染みの持ち込み品と一緒に選び、居心地よい居室になるよう配慮している。持ち込みの無い人にはホームや職員が持ち寄り居心地よく過ごせる居室作りを支援している。</p>		

 は、重点項目。